

歌声を取り戻しつつ…音楽の授業風景
♪四方を向いてリコーダー♪



吾孺二中 ニュースレター

墨田区立吾孺第二中学校

令和3年12月1日
校長 駒田 るみ子

ポッチャ大会 11月20日土曜日、桜堤中学校にて区中学校PTA連合会主催のポッチャ大会が、感染予防を徹底した中開催されました。最初のコーディネーショントレーニングと併せて、他校の保護者の方々と一緒に汗を流しました。

昨年度から夜のパトロール等PTAの方と連携した行事の中止が相次ぐ中、久しぶりに親睦を深めることができました。ポッチャ（奥が深いです）の楽しさとともに、PとTが手に手を取る大切さを感じたひとときでした。感謝と同時に今後も大事にしたいと思います。

地域とともに

吾孺二中地区青少年育成委員会主催の講演会が12月13日に行われます。「ヤングケアラーについて」の内容とお聞きしています。今、子供たちを取り巻く環境は様々に変化していて、新たな問題が起こっています。心を痛めるニュースも飛び込んできて、学校だけでなく地域の力もお借りして子ども達を育てていかねばと思っていますところ。

厚生労働省によると、ヤングケアラーとは、法令上の定義はありませんが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもとされています。お隣さん同士の垣根が低かった時代は、互いに声を掛け合い、手を差し伸べることができていたと思いますが、今はそれが分かりにくくなっているのかもしれない。

では、どうしたら・・・？

12月13日地域のみなさんと一緒に勉強したいと考えています。

「義肢装具士」臼井さんの話から

校長 駒田 るみ子

先週11月26日金曜日、勤労感謝の日の翌々日に義肢装具士の臼井二美男様をお招きして2学年の人権講演会を実施しました。

臼井さんは3年の道徳の教科書（→）にも紹介されている義肢装具士の第一人者でいらっしゃいます。35年にわたり3000本以上の義肢を製作してきたそうです。実際にそれを利用し生活して



いる方にも来ていただき、まずはどのようなものかを知るところから講演が始まりました。また、パラリンピックで多く陸上選手が競技の際に装着していたスポーツ用の義肢も見せていただき体験もさせていただきました。

人権を考える講演会でしたが、それと同時に「仕事をする上で大事な考え方」を学んだ気がしました。臼井さんを動かしているのは「誰かの役に立ちたい」「失った笑顔を取り戻してもらいたい」という気持ちでした。どんな仕事に就こうかと悩んでいた時に、小学校6年生の時の担任の先生が脚を切断し義足になったことを思い出したのが、この道を志す第一歩だったそうです。



ポッチャ大会での一コマ

講演会の中では決して押しつけるようなお話はされず、淡々と義足があることでどんなに生活が豊かになるかを語っていらっしゃいました。走れるようになったり跳べるようになったりすることの幸せは、臼井さん自身の幸せになっているのだなと感じました。私もこんな風に自分の仕事と向き合いたいです。2年生は例年の職場体験

とは違った形（オンラインなど）で職業について学びますが、どうぞ、みなさん「仕事への向き合い方」や「職業の選択」などについてご家族で話題にしてください。将来を考えることは、今日自分が何をすればよいかを教えてください。

最後になりましたが、今年も保護者の皆様、地域の皆様多くの方々にお世話になり学校を支えていただきありがとうございます。来年もよろしく願いいたします。



吾孺二中のホームページ

AWARD-WINNING

中学生・高校生のためのPOPコンテスト

絵本部門 入選 よみもの部門 緑図書館館長賞

よみもの部門 入選

よみもの部門 梅若橋コミュニティ会館館長賞

絵本部門 図書館員（ライブラリアン）賞

墨田区 図書館を使った調べる学習コンクール

銅賞

銅賞

青少年健全育成作文コンクール

最優秀賞

佳作

佳作

○幼保小中一貫教育の取組

11月19日（金）の13：20～14：05の5時間目に、八広小学校の6年生に向けて、本校から数学科の教員3名が訪問して算数の授業を行いました。

小学6年生にとっては、いつもとは異なった教え方が新鮮だった様子で、とても集中して計算問題に取り組んでいました。



○第2学年人権教育講演会 「障害のある方のサポートを通して学ぶこと」

11月26日（金）の6時間目に、臼井様、堀川様を講師にお迎えして、義足について学習しました。障害者理解を深め、互いを認め合い支え合う心を育むことを目的とした講義を通して、義足の可能性や日常生活に希望をもたらしてくれる義足の働きについて理解することができました。また、代表生徒6名が実際に義足を装着して歩いてみました。最初こそ不安そうにしていたようですが、どの生徒も義足の可能性を実感していました。

